

第5学年2組音楽科学習指導案

平成26年11月18日(火) 第5校時
授業者 所沢市立美原小学校 佐藤 幸子

1 題材名 曲想を味わおう

2 題材について

(1) 児童の実態

4年生における「旋律の特徴を感じ取ろう」の学習では、スタッカートとレガートの違いを感じ取って表現したり、楽曲の前半と後半の特徴を感じ取って表現したりすることができた。また、リコーダーに関する指導においては、美しい音に多く触れるためにCDの演奏や教師の演奏を聴取し、イメージづくりを行ってきた。その結果、適切な息の強さや正しいタンギングで演奏する児童が増えてきた。しかし、演奏や鑑賞で感じ取ったことを、音楽を形づくっている要素をつかって表現することについては、まだ不十分である。

(2) 題材設定の意図

本題材では主に、学習指導要領 A 表現 器楽 イ「曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって演奏すること。」B 鑑賞 ア「曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴くこと。」に関連している。手拍子や楽器が重なり合ういろいろな響きの特徴や違いを感じ取りながら、思いや意図をもって表現することができるようにすることをねらいとしている。そのため、それぞれの音楽の要素と曲想との関わり合いに気付きながら、曲想やその変化を感じ取って、音楽を想像豊かに聴いたり、思いをもって表現の仕方を工夫したりすることを中心に活動を進めていくようにしたい。また、楽曲の気分を特徴づけている要素に気付かせたり、個人やグループの活動を効果的に組み合わせたりして、想像豊かに表現したり聴いたりしていくことによって、より豊かな感性を身に付けられるようにしていきたい。さらに、気が付いたことを言語で表現し、友達に伝え合えるようにしていきたい。

3 題材の目標

- (1) 曲想やその変化を感じ取り、表現したり聴いたりする活動に進んで取り組むようにする。
(音楽への関心・意欲・態度)
- (2) 旋律やリズムの特徴を感じ取って、曲想を生かした表現の仕方を思いや意図をもって工夫するようにする。
(音楽表現の創意工夫)
- (3) 曲想を生かした表現の工夫をしながら演奏することができるようにする。(音楽表現の技能)
- (4) 速度や強弱に気を付けて主な旋律の反復や変化などを聴き取り、曲想とその変化を味わいながら聴くようにする。
(鑑賞の能力)

4 教材について (◎は本時で扱う教材)

○「ハンガリー舞曲第5番」

旋律のくり返しや変化に、速度や強弱の変化も加わるため、曲想の変化を感じ取りやすい教材である。テレビなどのメディアでもよく流れるので、子どもたちにとっても興味をもちながら聴くことができる楽曲の一つである。こうした利点を生かし、旋律を口ずさんだり、指揮のまねをしたりする活動を通して、曲想(速度)の変化を耳や体で感じ取り、楽曲の特徴のよさを味わうようにすることねらいとする。

◎「リズムアンサンブル」

グループごとにリズムの組み合わせ方や強弱を工夫しながら、アンサンブルを楽しむ教材である。強弱とその変化やパートの組み合わせ方による音の重なりを工夫すること、また、鑑賞で感じ取ったことを関連付けることで、曲想(曲のテンポ)の変化に富んだリズムアンサンブルをすることをねらいとする。

○「キリマンジャロ」

アフリカ大陸にあるキリマンジャロ山をテーマにした、エネルギッシュな合奏曲である。ア

の部分とイの部分の曲想の違いを生かして演奏を工夫したり、鍵盤ハーモニカとリコーダーの掛け合いを楽しんだりしながら合奏の学習を進めたい。また、強弱の工夫や使用する楽器の音色によって色彩豊かな表現を体験することをねらいとする。

5 本題材で主に扱う〔共通事項〕との学習活動のかかわり

〔共通事項〕ア	旋律	リズム	強弱	速度
主な学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・旋律の特徴やその変化を感じ取る。 ・旋律の特徴を生かして演奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・組み合わせを工夫しながらアンサンブルを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・工夫しながら、アンサンブルを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・変化を感じ取りながら、楽曲の特徴やよさを味わう。

6 題材の評価規準(題材の評価規準及び学習活動における具体的評価規準)

	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
題材の評価規準	旋律の特徴や調の変化などに気付いて演奏の仕方を工夫したり、楽曲全体にわたる曲想とその変化を感じ取って聴いたりする学習に主体的に取り組もうとしている。	曲想の違いや変化を感じ取りながら、思いや意図をもって、強弱や速度などを工夫して演奏している。	互いの楽器の音の重なりを聴き合い、曲想の変化を味わいながら楽器を演奏している。	強弱や速度に気を付けて、主な旋律の反復や変化などを聴き取り、曲想とその変化を味わいながら聴いている。
学習活動における具体的評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ①曲想の違いに関心をもち進んで演奏しようとしている。 ②各パートの音や全体の響きを聴きながら、拍の流れにのって演奏しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①拍の流れに合わせて強弱や速度の変化などを工夫している。 ②曲想の違いを生かして、演奏の仕方を思いや意図をもって工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ①拍の流れに合わせて、正しいリズムで演奏している。 ②旋律やリズムの感じを生かして演奏している。 	○楽曲全体にわたる曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴いている。
1	①			○
2★		①	①	
3		②		
4	②		②	
5		①		
6			①	
7			②	

7 題材の指導と評価の計画

時	○学習内容 ・学習活動 ◎教材	・指導上の留意点 評価方法【 】	共通事項
1	<ul style="list-style-type: none"> ○曲想を感じ取る。 ◎「ハンガリー舞曲第5番」 ・曲全体の雰囲気を感じ取りながら聴く。 ・旋律を口ずさみながら聴く。 ・それぞれの旋律の特徴について、気付いたことを話し合う。 ○曲想(速度)の移り変わりを感知取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の楽譜を参考にして「ラ」などで口ずさむようにする。 ・旋律が繰り返されたり、変化したりしていることを抑えられるように助言する。 【ア 表情観察】 	旋律

	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想（速度）が変わったところで挙手したり、指揮のまねをしたりしながら聴く。 ・曲想が移り変わる様子を味わいながら、全体を通して聴く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体の動きを通して速度や強弱とそれらの変化などに気付くようにする。 <p>【エ 活動観察】</p>	強弱 速度
2★	<ul style="list-style-type: none"> ○拍の流れに合わせてリズムを打つ。 ◎「リズムアンサンブル」 ・アとイのリズムをリズム唱したり、手拍子で打ったりする。 ・グループをつくり、3つのパートを分担して手拍子で練習する。 ○曲想（強弱・速度）の工夫。 ・曲想（強弱・速度）を工夫してアレンジシートに記入する。 ・アレンジシートをもとに手拍子で演奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのリズムを打てるようになってから、グループに分かれるようにする。 ・拍の流れにのって打つように助言する。 <p>【ウ 演奏聴取】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に手拍子で打って確かめながら進めるようにする。 ・拍の流れを意識しながら互いのパートを聴き合うように促す。 <p>【イ 演奏観察 ワークシート】</p>	リズム 強弱 速度
3	<ul style="list-style-type: none"> ○リズムアンサンブルを楽しむ。 ・グループごとに発表して、聴き合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想（強弱・速度）の変化を互いに聴き合えるように助言する。 <p>【イ 演奏観察 アレンジシート】</p>	リズム 強弱 速度
4	<ul style="list-style-type: none"> ○曲全体の感じをつかむ。 ◎「キリマンジャロ」 ・教科書の楽譜を見ながら、CDを聴き、曲全体の感じをつかむ。 ・強弱記号や演奏順序について確認する。 ○旋律の特徴を生かして演奏する。 ・主旋律を階名唱する。 ・主旋律の特徴を生かして、鍵盤ハーモニカとリコーダーで演奏する。 ・伴奏に合わせて、主旋律を演奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アとイの曲想の違いに気付くようにする。 ・楽典的なことが苦手な児童も自力でできることやわかることを確認したうえで、苦手な部分を指導するようにする。 <p>【ア 行動観察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メトロノームなどで速度を示し、拍の流れに合わせて階名唱するようにする。 ・2つのグループに分かれて練習し、強弱やリズム、スタッカートなど、アとイの曲想の違いに気をつけて演奏するようにする。 <p>【ウ 演奏聴取】</p>	旋律 リズム 強弱
5	<ul style="list-style-type: none"> ○楽器の特徴を生かして、鍵盤楽器1と2のパートを演奏する。 ・拍の流れに合わせて、鍵盤楽器2のパートを演奏する。 ・拍の流れに合わせて、鍵盤楽器2のパートを演奏する。 ・伴奏に合わせて、鍵盤楽器1と2のパートをあわせる。 ・主旋律に合わせて演奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の土台となる低音パートを先に練習するようにする。 ・伴奏を聴いて、拍の流れにのりながら演奏できるようにする。 ・主旋律と合わせるときには、縦のリズムがそろうように、拍打ちなどで支えるようにする。 <p>【イ演奏観察 演奏聴取】</p>	旋律 リズム 強弱

6	○リズム伴奏を工夫する。 ・教科書のリズム伴奏の譜例やCDの範奏を参考にして、リズム伴奏を工夫する。 ・打楽器を分担して、リズム伴奏を演奏する。	・拍の流れによって互いのパートの音を聴き合うようにする。 ・それぞれの打楽器の音量のバランスに気をつけて演奏するように助言する。 【ウ演奏聴取】	リズム
7	○曲想を生かして合奏する。 ・互いの旋律や全体の響きを聴きながら、曲想を生かして合奏をする。	・今まで工夫してきたことを思い出しながら演奏するように助言する。 【ウ演奏聴取】	旋律 リズム 強弱

8 指導と評価の計画

(1) 目標

- 拍の流れに合わせて、正しいリズムで演奏する。
- 拍の流れに合わせて、強弱や速度の変化などを工夫する。

(2) 本時で主に扱う【共通事項】：リズム、強弱、速度

(3) 展開 (2/7時)

学習内容 ・学習活動	□は学習活動に即した評価規準 ・指導上の留意点 評価方法【 】	時間
1 既習曲を演奏する。 ・体操、発声練習をする。 ・「歌よありがとう」を演奏する。	・口の開け方や表情を観察し、明るく響く歌声になるように児童の様子を観察し、適宜指導する。	10
2 本時の学習課題を知る。		10
強弱と速さを工夫して、リズムアンサンブルをしよう		
3 「リズムアンサンブル」のリズムを拍の流れに合わせて確認する。 ・アとイのリズムをリズム唱したり、手拍子で打ったりする。 ・3つのパートを分担して手拍子で練習する。	・それぞれのリズムを打てるようになってから、各パートに分かれるようにする。 ・拍の流れに合わせて打つように助言する。 拍の流れに合わせて、正しいリズムで演奏している。 【ウ 演奏聴取】	
判定基準 (A, B) とCの指導への手立て B: 拍の流れに合わせて、正しいリズムで手拍子を打っている。 A: 曲想 (速度や強弱) の変化を感じ取りながら、拍の流れに合わせて正しいリズムで手拍子を打っている。 C→拍子をカウントしたり、リズムを声に出したりして、練習するように促す。		
4 曲想 (強弱) の工夫。 ・曲想 (強弱) を工夫してアレンジシート (各グループに1枚) に記入する。 ・アレンジシートをもとに手拍子で	・実際に手拍子で打って、強弱の変化を確かめながら進めるようにする。 ・拍の流れを意識しながら、互いのパートを聴き合うように促す。 ・中間発表できそうなグループには、発表することを伝	13

<p>演奏する。</p> <p>5 リズムアンサンブルを楽しむ。 ・グループごとに発表して、聴き合う。</p> <p>6 まとめ ・本時のまとめと次時の予告をする。</p>	<p>えておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲想（強弱）の変化を感じ取って、互いに聴き合えるように助言する。 ・ここでの発表は中間発表とし、2グループ程度の発表にする。 <p>拍の流れに合わせて、強弱や速度の変化などを工夫している。【イ 演奏観察 ワークシート】</p> <p>判定基準（A， B）とCの指導への手立て B：他のパートに合わせて自分のパートを表現している。 A：リズムの特徴をとらえて、表現を工夫しながら演奏している。 C→拍子をカウントしたり、リズムを声に出したりして、練習するように促す。</p>	<p>1 0</p> <p>2</p>
--	--	---------------------

アレンジシート

♪リズムアンサンブル にチャレンジ♪



グループ	メンバー
------	------

おわりの部分に入る合図 「 ! 」

強弱と速さをアレンジしてみよう

	1回目	2回目	3回目	4回目	おわりの部分
①					
②	休み				
③	休み	休み			
強 弱					
はやさ					

強弱の記号

P *mp* *mf* *f* < >